

2025 年度 第 1 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2025 年(令和 7 年)2 月 12 日(水)18:00-20:00
場 所	高知市文化プラザかるぽーと(ハイブリッド開催)
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、岡村智教、三宅吉博、小橋元、曾根博仁、片野田耕太、有馬久富、福島若葉、近藤尚己、村上義孝、井上茂、中田由夫、三浦克之、川崎良、後藤温、寶澤篤、郡山千早 第 35 回学術総会会長:安田誠史 第 36 回学術総会会長:金子聰 監事:横山徹爾、和田恵子 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美、吉田香

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 21 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

- 2024 年度第 3 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
- 2024 年度事業報告について玉腰理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育・研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他について報告があった。以上の事業報告は 2024 年度第 3 回理事会で承認されている旨説明があった。
- 2024 年度決算報告書(収支計算書)について菊池事務局長より報告があった。事業活動収入は、73,673,224 円であった。その内訳は、会費収入 2,137 万円、会誌発行・学術総会等の事業収入 4,815 万円、その他科研費である。一方、事業活動支出は、64,351,014 円であり、収支差額は、9,322,210 円となっている。
2024 年度決算報告について和田監事より監査報告があり、承認された。
- 2025 年度事業計画書について玉腰理事長より、学術総会の開催に関する事業、会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業、調査、研究、情報の収集および提供に関する事業、人材の教育、研修に関する事業、国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携および交流に関する事業、資格の認定に関する事業、表彰に関する事業、その他の関連する事業、その他の

計画について説明があった。以上の事業計画については、2024 年度第 3 回理事会で承認されているが、修正がないことが確認された。

続いて、2025 年度予算案について菊池事務局長より次の説明があった。会費収入は 2,267 万円を見込んでいる。事業収入計は 3,059 万円（前年度決算額 4,815 万円）で、その他科研費と寄付金収入を合わせた事業活動収入は、5,996 万円となる。事業活動支出は、会誌発行、学術総会、疫学専門家制度、委員会活動、事務局運営・管理、選挙等の費用を合わせて、5,693 万円として計上した。収支差額は 303 万円の予算となる。以上の予算案は昨年 11 月に理事会で承認されたものに、寄付金収入 500 万円が追加計上された旨の説明があった。

また、片野田編集委員長より、2025 年度は科研費収入が大幅に減額となるため、これまで科研費から拠出していた通常の活動費を一般会計に組み入れる旨の補足説明があり、2025 年度予算案（補正）が承認された。

5. 名誉会員の候補者として前理事会で提案のあった松村康弘氏を、第 9 回定時社員総会において提案することになった。
6. 次期選挙管理委員会メンバー（任期：2025 年 2 月 13 日（社員総会）から 2027 年 2 月（社員総会）まで）について検討が行われ、福田吉治（帝京大学）現委員長の再任が承認された。今後メンバーを選出し、3 月中旬以降に開始される代議員選挙に備えることになった。
7. 疫学リソース利用促進委員会の岡村委員長より、リンケージ基盤推進ワーキンググループ長について、松尾前理事の退任後実質的な活動ができていないため、長い間外部委員として当該 WG に関わり、昨年会員となった古元重和氏（北海道大学）を WG 長として就任を依頼したい旨の説明があり、承認された。
8. 学術委員会 社会実装推進ワーキンググループの寶澤 WG 長より、厚生労働省が推進する健康のための行動リーフレット「おすすめ行動リスト」（厚生労働省、国立保健医療科学院、日本疫学会、日本公衆衛生学会）の内容の説明がなされ、内容及び日本疫学会ロゴの掲載について承認された。
9. J-MICC 研究モニタリング委員の推薦について、玉腰理事長より説明があり、提案された候補者が承認された。
10. 代議員の立候補年齢の上限について、関根副理事長より、他学会（日本脳神経血管内治療学会、日本口腔インプラント学会）の例を挙げ、上限年齢の変更に伴う

シニア会員や若手会員のあり方（登用方法など）についての検討案の説明がなされた。また、代議員へ行なったアンケートの集計結果の報告があり、当該事項について活発な議論が行なわれた。今後も継続的に（オンライン会議あるいは臨時理事会の開催により）議論を交わし、代議員の立候補年齢について、代議員選挙の開始前の3月中旬までに、慎重に検討していくことになった。

<報告事項>

1. 玉腰理事長から次の報告があった。
 - がん登録推進法改正要望書（認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会）について、理事会 ML にて意見を伺い（12/5 12/13）、その後協議会へ賛同を示した。当該要望書が連名で厚生労働省へ提出された（1/27）。
 - AMED ガイドラインについて、昨年 9/27 に「サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアのためのガイドラインへのパブリックコメントの募集」を「疫学会通信」にて行なった経緯があり、それに基づき作成された当該ガイドラインの協力団体として、「日本疫学会」を掲載することに同意した。
2. 各委員会等から次の報告があった。
 - 1) 疫学リソース利用促進委員会 既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG の三宅 WG 長より、次の報告があった。昨年実施したアンケート調査の回答数が一桁であり、十分活用されずに保管されたままの疫学研究を把握することは困難であると判断したため、今後は現在進行形の「日本の疫学研究データベース」（仮称）を作成することとし、登録項目や運用方法等について検討を進めることになった。
 - 2) 学会等連携推進委員会の曾根博仁委員長よりこれまでの活動について、次の報告があった。① 共催シンポジウム等の企画について積極的なご提案をお願いしたい。② 第 35 回日本疫学会学術総会において、学会等連携推進委員会企画シンポジウム「疫学研究と臨床を含む現場との連携」を 2/13 に開催する。③ 日本医学会連合加盟学会連携フォーラム共催事業へ応募した、日本栄養・食糧学会との共催シンポジウム「栄養疫学の可能性と展開 ～ライフコースを通じた健康への貢献」が採択された。当該シンポジウムは、第 79 回日本栄養・食糧学会大会（特に 5/23-25@名古屋大学東山キャンパス）において開催される予定である。④ 日本医学会連合社会部リトリートは、社会部会加盟 19 学会所属の若手研究者の相互交流と育成を目的に開催されるが、本年は臨床系学会も参加し、「超少子高齢社会における Personal Health Records (PHR) の活用と課題 ～社会医学の未来に向けて～」をテーマとして実施予定（2/22-23@LINK FOREST）である。本学会は企画担当学会のため、理事クラスとして曾根博仁委員長、若手として永吉真子委員

が企画委員となっている。若手研究者として攻防された、町田征己（東京医科大学）、中舘美佐子（麻布大学）、安福祐一（大阪大学）の各先生を派遣予定である。

また、禁煙推進学術ネットワーク連絡ワーキンググループの片野田 WG 長より、次の報告があった。① 禁煙治療分野において、出荷停止が続いているチャンピックスについて、製造業者（ファイザー）が 2025 年上半期の再開を目指している。② 第 6 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議が 2024 年 11/16 に日本疫学会（片野田先生）、日本臨床腫瘍学会（福田実先生）、日本歯周病学会（稲垣幸司先生）の共催で開催され、本 WG から松山祐輔先生と姜英先生が講演された。③ 第 35 回日本疫学会学術総会@高知（2/14）において、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG 企画シンポジウム「疫学と法律 ―疫学は法規制や訴訟にどう貢献できるか」を開催する予定である。

- 3) 多様性(ダイバーシティ)促進委員会の村上委員長より、日本医学会連合からの「男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査」について、回答済みであることが報告された。
- 4) 広報委員会の有馬委員長に代わり、福島副委員長より、ニュースレターNo. 65 の発刊（4/14）に向けて作業を開始したとの報告があった。
次に、疫学リテラシー普及促進ワーキンググループの福島 WG 長より、日本疫学会ホームページの一般向けコーナー「疫学用語の基礎知識」の編集作業の進捗状況について説明があった。
さらに、メディア連携ワーキンググループの近藤 WG 長より、若手の会との合同企画やジャーナリスト団体との共同事業の推進について検討中であるとの報告がなされ、今後若手からのアイデアや発想を自由に議論し実践していく機会を作る必要との意見が出された。
- 5) JE 編集委員会の片野田新委員長より、次の報告があった。
 - 編集委員会メンバーで、今年で任期終了の浦山ケビン先生の後任に、Dr. Olukunmi Omobolanle Balogun が就任する。
 - COPE (Committee on Publication Ethics) へ再申請中である。
 - 中所得国の掲載料補助を検討中である。
 - Impact Factor : 3.7 (2023) (3.5 for 5-years)
 - 進行中の特集号について整理している。①Japanese Legacy Epidemiological Studies ②Biostatistics Seminar ③Age-standardization ④Updating study profile

- 投稿数は2024年12月末で498となっており、2023年(377)を大幅に上回った。投稿数の多い国は、中国、日本、台湾、韓国、エチオピア、米国の順。
- Paper of the year(POY)、Best Reviewer 選考結果 (11/19 理事会MLにて報告済み)

[POY]

“Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/
Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female
Reproductive Factors in Japan”

(<https://doi.org/10.2188/jea.JE20230155>)

Madoka Iwase, Yukari Taniyama, Yuriko N. Koyanagi, Yumiko
Kasugai, Isao Oze, Norikazu Masuda, Hidemi Ito, Keitaro Matsuo

[Best Reviewer]

Dr. Yuka Suzuki 鈴木 有佳 (Keio University)

Dr. Jiaqi Li 李 嘉琦(リ・カキ) (Kindai University)

Dr. Atsushi Miyawaki 宮脇 敦士 (The University of Tokyo)

Dr. Enbo Ma 馬 恩博 (マ・エンボ) (Fukushima Medical University)

- 科研費 国際情報発信 (2024 年度まで科研費) : JE 掲載論文の PR 強化
 - ① 2022 年 10 月 HP のリニューアル。編集室メンバーで順調に運用している。
 - ② 2022 年 9 月 X (旧 Twitter) 開始。
 - ③ オセアニア地域のプレゼンスを高める。
- 日本疫学会プレセミナー2025 (@第35回日本疫学会学術総会) (2/12) 実施
Journal of Epidemiology 編集委員会企画「美しいグラフィカル・アブストラクトを作る Creating a stunning graphical abstract」
- Australian Epidemiological Association Annual Scientific Meeting
@Hobart, Tasmania (<https://epidemiology.org.au/asm>)

- 6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告があった。2024 年度の活動は、
①国際化推進委員会企画シンポジウム「国際共同疫学研究の進め方と今後の課題」開催 (第35回学術総会@高知) ②Travel Award 選出 (WCE2024@Cape town) ③日韓台ジョイントセミナー (2024, 10.25 @釜山) ④日本疫学会学術総会 企画) ⑤サテライトセミナーの開催 ⑥第8回トラベルグラントの選考を行なった。次に、2025 年度の活動としては、①第36回日本疫学会学術総会において、JEA-IEA Joint-Meeting in Nagasaki ②第9回トラベルグラントの選考 を行なう予定である。

- 7) 疫学専門家委員会の活動について、井上茂委員長より、次の報告がなされた。
- 2024 年の申請数は、疫学専門家 31 件（新規 15 件、更新 16 件）、上級疫学専門家 170 件（新規 18 件、更新 152 件）であった。2 月 14 日に疫学専門家認定筆記試験を実施予定である。作問とブラッシュアップには、38 名の先生方にご協力いただいた。
 - 井上茂委員長より、疫学専門家タスクフォースの活動について、TF 会議を開催（Web）し、次の意見が出されたとの報告があった。①研究申請書等に疫学専門家の枠の設置を働き掛ける ②疫学専門家の属性を明らかにする ③資格保有のメリットやその成功例を収集する ④教育の機会を設けて資格取得につなげる。
- 8) 学術委員会の川崎委員長（疫学研究推進 WG 長）より、疫学研究推進グループ（放射線疫学推進グループ、出生コホートネットワーク）の活動状況について、報告があった。
- また、疫学教育推進ワーキンググループの後藤 WG 長より、第 35 回日本疫学会学術総会の初日（2/12）に 4 つのプレセミナー2025 が開催されたとの報告があった。
- さらに、社会実装推進 WG では、第 35 回学術総会において、WG メンバーを中心とした学術委員会企画「疫学研究と地域・社会への実装」についてのシンポジウムを開催する旨の説明があった。
3. 第 35 回日本疫学会学術総会の準備状況について、安田大会長より、説明があった。
4. 第 36 回日本疫学会学術総会の準備状況について、金子大会長より次の説明があった。①開催日時：2026 年 1 月 28 日（水）～1 月 30 日（金）②会場：出島メッセ長崎③開催形態：現地開催の予定（一部、後日オンデマンド配信あり）④テーマ：：Epidemiology and Global Issues: Addressing Diversity, Complexity, and Inclusion ⑥事務局長：加賀谷 渉（長崎大学熱帯医学研究所）⑦運営委託：株式会社コンベンションリンケージ 長崎支社
5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より、次の報告があった。
- 1) 学会事務局活動（2024 年 11 月～2025 年 1 月）
- 会費・冊子代の請求書郵送（ゆうちょ銀行およびコンビニ払いの振込票）

- ホームページの更新：事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ、代議員リストの更新、プレセミナー開催案内、疫学専門家認定制度合格者発表、受験票の送付等
- 会計年度末締め、決算書（案）作成
- 理事長ミーティング(11/12、12/18、1/6)
- 社員総会準備（議事案作成、開催案内、委任状回収、配布資料、スライド準備）
- 各種賞結果通知と授賞式準備
- 学術総会準備
- 第1回理事会開催準備（理事長・事務局長打合せ@Web 2/6）
- 委員会活動の支援：JE編集委員会（掲載料の請求、冊子注文受付、科研費管理）、疫学専門家委員会（資格審査WGのWeb会議補助、認定筆記試験準備）、広報委員会（ニュースレター発行スケジュール管理）、国際化推進委員会（トラベル гранトの募集・選定に関する補助）、COI委員会（申請書まとめ、委員会への確認依頼）、学術委員会（プレセミナー開催準備等）
- 関連団体への対応（日本医学会、日本医学会連合、日本医学会総会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会等）
- 社会医学系専門医協会：専門医・指導医の単位取得のための受講証明書発行についての調整・確認

2) 庶務報告

- 会員数(2025年2月1日現在)：名誉会員：33名、代議員：235名、普通会員：2,434名(合計：2,702名) ※普通会員のうち2024年度入会学生：129名)
- 年会費納入状況(2025年2月1日現在)：2024年度会費の納入義務のある会員：2,573名、2024年度までの会費納入完了者：1,935名、75.2%)
- 疫学会通信の発行回数(2024年11月～2025年1月)：4回

以上